

令和5年度 第4回 豊田市保見地域会議 会議録

| | | | |
|------|--|------|---------|
| 開催日時 | 令和5年7月26日(水) | 開会 | 閉会 |
| | | 午後7時 | 午後8時40分 |
| 会場 | 保見交流館1階 多目的ホール | | |
| 出席者 | 地域会議委員：13人 | | |
| | 会長：湯浅 進也 副会長：田中 治 | | |
| | 委員：大城 一美 大羽 啓允 楓原 和子 篠田 賢悟 深見 浩司 福岡 博之 藤田 パウロ 船倉 茂久 水嶋 淳 山田 貴啓 吉村 迅翔 | | |
| 欠席者 | 5名(加納 和茂 倉知 朋範 竹崎 佐恵美 森岸 直幸 山本 昭治) | | |
| 傍聴者 | 0名 | | |
| 事務局 | 猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、岩村(苑)主査 | | |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊田市民の誓い(唱和) 2. 会長あいさつ 3. 新たな提言に向けた取組について 4. 令和5年度の地域課題解決事業について 5. 情報共有・事務連絡 | | |

■ 議事(要約)

3 新たな提言に向けた取組(協議)

最終的な提言書の構成イメージについて事務局から説明し、保見地域会議の提言テーマとして「健康づくり」と「多文化共生」のどちらにするかを決定するため、協議を行った。(資料1・2頁)

⇒結論：本日出された意見を参考に、正副会長で提言の方向性を決めて今後の会議で諮っていく。

各委員から出た意見は次のとおり

- ・「健康づくり」というテーマが出てきた背景は、地域住民の健康に問題があるというよりも、地区内にスポーツ関連施設が充実していることから、それらを活用した意見として出てきたのではないか。
- ・保見地区においては「多文化共生」というテーマは外せないということはあるが、生活全般の多岐にわたるものなので、ポイントを絞らないと議論するテーマが広すぎる。
- ・地域性を考えると「多文化共生」ではないか。
- ・「健康づくり」は個人の問題が大きい。取組内容も決定打がないのが現状ではないか。
- ・切実な問題と感じているのは「健康づくり」の方である。地域でも高齢化が進んでおり、区の役員の担い手がいない。また少子化も進んでいる。一人暮らしの高齢者が増えて、個人では対策できないので「健康づくり」に取り組んではどうか。
- ・テーマが「健康づくり」という単語になっているが、元々は「保見地区で若者・住民が生き生きとするまちづくり」といった意味ではなかったか。
- ・デイサービスに通っている家庭が多い。自分で自分のことができる状態を長くすること(健康寿命を延ばす)で地域が活発になることにつながる。

- どちらのテーマにしても、住民の参加がなければ意味を成さない。
- 回覧板を回してもあまり効果がない。どのようにして呼びかけ、住民の積極的な参加を促すかを考えることが重要である。
- 健康づくりは長い期間で取組が必要になる。高齢化率が問題ではない。提言したからといってすぐに健康寿命が延びるわけではない。成果が出るまでに10年かかるとしたら、どういった時間軸で考えればいいのか。
→今、健康な人の健康寿命をどれだけ延ばせるかの取組。少しでも健康で長く生きていくことができるまちづくりを行う。長期的に進める足掛かりになるような提言を行っていきけるといい。
- どちらのテーマも地域の中で進めている団体がある。それらの活動も参考にしながら提言できるといい。
- 若い人が保見地区にいないのは保見団地に怖いイメージを持っている人が多いからだと感じている。多文化共生に力を入れることで、イメージを払拭し若い人たちが戻ってこられるようになればいい。
- 怖いというイメージはない。交通機関が不便などの理由で出ていく人が多い気がする。
- 保見団地にはバスが運行しているが、車がないと買い物にも行けない。高齢になればなるほど公共交通が大事。学校までの距離が遠いと自治会が交通費を補填している地域もあると聞いたことがある。
→おいでんバスが、保見団地や乙部ヶ丘を回り浄水駅まで運行している。助け合いの交通は、南部の高岡地区でも行っている。運行する車両についての保険を市が支援している。
- 「多文化共生」について外国の方がどれだけそう思っているかといえば、それ程意識していないのでは。
- 国籍に関係なく複数人がいればすべて多文化共生だと思う。高齢者の健康づくりというテーマで進めれば自然と多文化共生につながる。日本人も外国人も意識せず垣根を作らずいけばいい。健康づくりの取組をNPO法人で行った際、最初は日本人だけだったが、外国の方も途中から参加された。取組を行うときは年齢とかで分けてはどうか。
- 「多文化共生」として取り上げるのは、そこに壁があるから。壁をつくらない取組を進めていけばいいのでは。
- 垣根なしに保見地区に住んでいる人みんなで行うことが大切。外国人だから助けるとか、日本語を教えるとか、日本のルールを知ってもらうのではなく(受け身ではなく)、それぞれの持っている力・能力を発揮する場が必要。一方通行ではなくお互いに助け合うことが大切。
- 「多文化共生」でもっと意見を出し合って進める方がいい。「健康づくり」は多岐にわたるので、地域会議でどこまでできるのか。日本人と交流しなくても生活できるというのが問題。健康づくりよりは的が絞りやすい。
- 「多文化共生」に接点がないため、ほとんど意見を書けなかった。外国の方の意見も聞けたらと思う。
- 「健康づくり」の方がテーマとして扱いやすいのではないか。外国籍の方の自治区加入の問題がある。広報とよたはホームページから自身の言語で読んだ方がわかりやすい。

自治区加入のメリットが分からない。

- ・この場に出てきて初めて「多文化共生」という言葉を知った。日常生活の中ではほとんど感じないため、地域によっては力が入らないのではないか。「健康づくり」はあくまで個人の問題との意識もあり、隣近所のことから分かって一緒に取り組めないかも。
- ・家に持ち帰って、提言のイメージを踏まえた上で今一度それぞれで考えてきてほしい。
- ・外国の方とうまく共生するような健康づくりという方向性で進めるのはどうか。あくまでも軸足は「健康づくり」として。
- ・この場でどちらかに決めるというのは無理がある。どこかで引っ張って行ってほしい。たたき台の提案があって、それについて意見を言う方が建設的だと考える。
- ・みなさんの意見を参考に正副会長で方向を決めさせていただく。

4 令和5年度の地域課題解決事業（報告）

事務局から事業の進捗について報告（資料3～5頁）

- ・通学路の危険僕伐採は学校からの要望がなかった。
 - ・ごみ拾いイベントは2つの自治区から手が上がったので、今後調整していく。ダストボックスペイントは事前に打ち合わせができなかったため、8月4日に保見中学校と打合せをする予定。
 - ・看板とダミー監視カメラの設置については、現時点で3つの自治区から申請がある。
- 質疑等：3つの事業とも今後継続すべきか検討が必要ではないか。
- 回答：本事業は3年間の計画で実施している。ダストボックスペイントは昨年できたものは5個だけで、もっと増やさないと効果も表れず、成果が見えにくい。看板とダミー監視カメラの設置は、回収したごみの量が僅かではあるが減少している。計画期間終了後には継続するかの検討を行う。

5 情報共有・事務連絡

- ・令和5年度のわくわく事業2次募集について、3団体の申請があったことを報告。

（次回の予定）

日時：令和5年8月23日（水） 午後7時から

場所：保見交流館1階 多目的ホール

内容：提言の協議